

ID:

患者氏名:

様

	入院当日(～治療前日)	化学療法当日	治療2日目～	退院日
	月 日(～ 月 日)	月 日	月 日～	月 日
<b>目標</b>	治療の経過が分かる	予定どおりに治療が終了する	症状出現時は適切な対処が受けられる	退院指導の内容が分かる
<b>説明・指導</b>	入院・治療について説明します。予測される副作用および予防法・出現時の対処方法について説明があります。	点滴中、針の入っているところが痛くなったり、腫れたり、重苦しくなったら、すぐに教えてください。ふらつき・目まい等があるときは必ず看護師を呼んでください。副作用症状がひどいときは、遠慮せずに話してください。		退院指導を行います。(生活指導や次回外来再診日の連絡)次回から外来化学療法を行う場合は、外来化学療法室のご案内・説明を行います。
<b>治療処置点滴</b>		9時頃 点滴の針を入れ、準備します。 <b>スケジュール</b> ① 15分間 グラニセトロンという吐き気止めとデキサート(ステロイド)、ボラミンというアレルギー予防剤とザンタックという胃薬の点滴をします。 ② 30分間 生理食塩液を点滴します。 ③ 3時間 タキソール(パクリタキセル)を点滴します。 ④ 1時間 カルボプラチンを点滴します。 ⑤ 5分間 点滴の管を流すため、生理食塩液を1本点滴します。 終了後点滴の管を止めます。(状態により生理食塩液の点滴をすることがあります。)	水分・食事が十分取れない時は点滴を1～2本行います。 体調をみて点滴の針を抜きます。 	抗がん剤の主な副作用 発症時期による症状と対処方法について 【投与直後から数時間】 発疹・発赤・顔のほてり・かゆみなどのアレルギー症状 → 抗アレルギー剤投与 【投与から1～2日後】 便秘症 → 便秘薬(緩下剤)の内服 はき気・嘔吐・食欲不振などの消化器症状 → 吐き気止めの内服 【投与から2～3日後から】 関節・筋肉痛 → 痛み止めの内服 【投与から数日間経過してから】 口内炎 → うがいや抗炎症薬の軟膏を塗布 手指のしびれ → ビタミンB12製剤の内服 白血球減少 → G-CSF製剤(白血球を増やす薬)を注射 貧血 → 輸血(頻度は稀です) 血小板減少 → 血小板輸血(頻度は稀です) 【投与から1～2週間経過してから】 脱毛 → かつらやバンドナなどを使用 味覚の変化 → 味付けの工夫、うがいや亜鉛製剤の内服
<b>内服</b>		現在飲んでいる内服薬の確認をします。 内服薬は基本的に継続内服とします。		外来でも、吐き気止めや便秘薬の処方を行います。 
<b>検査</b>	次の検査をすることがあります。 血液検査 胸のレントゲン 心電図検査 	6時 体温と血圧を測ります。 タキソール(パクリタキセル)の開始から30分間、心電図モニターを装着します。(1コース目のみ) タキソール(パクリタキセル)を開始する前と開始5分後、10分後、15分後、30分後、終了時に血圧を測ります。	体調をみて血液検査を行います。	外来で採血をして、骨髄抑制(白血球減少、貧血、血小板減少)の有無を確認します。 白血球減少が認められた場合は、次回の化学療法を延期し、G-CSF製剤(白血球を増加させる薬)を注射します。 うがい、手洗いをし、マスクをつけ感染予防をしてください。
<b>食事</b>	基礎疾患(糖尿病・高血圧など)に応じて、治療食をお出しすることもあります。	食欲に応じて食事変更が出来ますので、医師・看護師にお話ください。 		*1コース21日以下の予定で行います  1            8            15            21 タキソール  カルボプラチン 
<b>生活・行動</b>	特に制限はありません。	特に行動制限はありません。		
<b>清潔</b>	入浴、またはシャワー浴ができます。	点滴治療中以外は、入浴、またはシャワー浴ができます。 点滴の針が濡れないように出来ますので入浴またはシャワー浴のときはお知らせください。 	体調が悪く、入浴・シャワーが出来ないときには、看護師が援助いたします。	
<b>その他</b>	入院後に熱が出た場合は、化学療法を延期し一度退院していただくこともあります。 入院に、付き添いは必要ありません。	抗がん剤点滴開始初期(特に10分以内)に発疹や顔が赤くなってほてるなどのアレルギー症状が現れることがあります。ほとんどは一時的なものでおさまりますが、症状が出現した場合は申し出て下さい。		

注) 予定は現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わることがあります。